

記録：第 338 海外邦人安全対策連絡協議会

9月7日、「第338回海外邦人安全対策連絡協議会」を開催したところ、概要につき以下のとおり。今回もTV会議を利用しての開催となった。主な議題は、新型コロナウイルス感染状況及び邦人のワクチン接種に関する情報。

1. 冒頭

(大使館総括公使)

当地の感染状況も先月と比べるとかなり改善してきており、皆さまも安堵されているかと思われる。ジャカルタ及びインドネシア全土の緊急社会制限も段階的に緩和されているところ。徐々に前の状態に近づいている。ただ依然として主要な規制は残っており気を緩める訳にはいかない状況。

大使館においては、先月末に発表させていただいたが、当地の在留邦人の方がご利用できるワクチン接種を遅ればせながらインドネシア当局との調整を経て発表させていただいた。本当にお待たせして大変申し訳ない。この事業においては、希望される邦人の皆さまは、必ず100%日本で承認されているワクチン、つまりアストラゼネカを受けられるという意味では当地では初めての事業だと思っている。これまではコドンヨロンのように、企業の人しか利用できない、あるいはワクチンの種類がシノバックやシノファームに限られているとか、アストラゼネカが打てたとしても供給量が限られているといった問題があったが、今回は100%受けられるということになっている。

今後大使館としてワクチンについては、まだまだ先の課題もあると認識しているので、在外邦人の皆さまに今後何が必要かということ、先々を見据えて後手にならないよう対策を考えていきたいと思う。

(大使館政務部書記官)

日本にワクチン接種や夏休みで帰られた駐在員・ご家族の皆さまがそろそろ戻ってくる流れができてきていると思われる。現状、当地の治安には特に変化は見られない。比較的安定しているが、引き続き、外出の際は最低限注意いただければと思う。

最近、アフガン情勢が混沌としている。アフガンがテロの温床になることによって、インドネシアでもテロの脅威が高まるのではないかと、そういった心配の声も聞こえてくる。現状、インドネシアのテロ情勢に特段変化の兆候はないが、過去を振り返ると、2000年から2010年頃にかけてのアルカーイダの隆盛と衰退に呼応するように、インドネシア国内におけるジェマー・イスラミア(JI)のテロ活動が活発化・沈静化し、また2014年頃から現在のISILの隆盛と衰退に呼応するように、インドネシア国内においてジャマー・アンシャルット・ダウラ(JAD)が活動を活発化させ、そして落ち着きの傾向を見せている。こうした過去の状況に鑑みると、今後アフガン情勢が混迷を増して、アフガン自体がテロの温床、そしてアルカーイダやISIL等のテロ組織が再び勢いづくに至れば、インドネシアにおけるテロ情勢も再び活発化する可能性も否定

できないため、今後の情勢について注視していく必要はある。

次に、在留邦人の生活に比較的身近な薬物の問題について注意喚起したい。この1年間に、何名かの在留邦人が、薬物の所持・使用等の疑いで、警察トラブルに発展した例が見受けられる。このコロナ渦で様々なストレスを抱えて当地で生活されている方も多いと承知しているが、そうしたストレスのはけ口の一つとして違法薬物を使用等することは、言わずもがなだが、絶対にやめてください。また、日本よりも違法薬物が比較的身近に存在するインドネシアで生活していると、自分自身は薬物を使ったり手に入れるつもりがなくても、知人等から持ちかけられることもあると承知している。違法薬物に関わる人には近づかない、余計なトラブルから距離を置くことを常に心がけていただきたい。

2. 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(大使館警備班書記官)

前回の海安協からの1ヶ月の間に、邦人から事件・事故の報告は受けていない。これは邦人の皆さまがワクチン接種のために帰国しているという事情もあるかと思われる。ただ、9月に入りワクチン接種を終えた皆さまが当地に戻ってくる流れが始まっていると承知している。そしてジャカルタやその周辺においても規制が徐々に緩和され、人流が増えてきているという状況であり、人流が増えれば事件・事故に巻き込まれる可能性が高まるので、日頃からお願ひさせていただいている基本的な防犯対策には引き続きご注意いただきたい。

大使館からお知らせしているデモについて、引き続き大規模なデモは警察から許可は出ていない。しかし、チカランの方では個別の企業に対する労働者のデモなどは起きているため、チカラン方面の方々はご注意いただきたい。

また、アフガニスタン情勢を受け、小規模ながらもジャカルタ中心部でデモが発生しているので、デモ情報については引き続きご注意頂きたい。

先ほどもお願いさせて頂いたが、薬物に関して、コロナ渦以降、企業の駐在員が薬物トラブルに巻き込まれるという事件が複数発生していることは事実。使用して陽性反応が出ればアウトなのはもちろんのこと、薬物の所持だけでも警察に拘束され非常に厳しい措置が執られる。現在ストレスがたまる状況ではあるが、薬物や薬物に近い人物とは絶対関わらないということを傘下企業の皆さまにも注意喚起いただきたい。

3. 新型コロナウイルスをめぐる状況

(大使館医務官)

ご存じのとおり、感染者自体はかなり落ち着いてきている。実際に数は減っており、新規に感染した、あるいは入院したという報告も先週頃からほとんど無くなっている。ただし、今起きている状態というのは2週間程度前の状況を反映した結果として今減っているという風に見るべき。2週間前といえばまだ規制がかなり厳しかった時期なので、その規制が緩和されたこの2週間、これからはさらに緩和されると思うが、当然今後減りが鈍化してきて今度はいつ再燃するか、次の波がいつ来るのかというのは容易に予想されることと思う。現在私の方に問い合わせいただくことも、感染が減ってきたということもあつ

て直接病気のことよりも、むしろ今の医療状況がどうなっているか、日本からそろそろ社員を戻したいが大丈夫か、という問い合わせをよく受ける。これについては今この瞬間の状況としてはある程度病院の空床もできていて入院できないこともないが、感染自体も落ち着いていると言える。しかし、前回の感染大爆発の時期の教訓として、一度感染拡大が始まるとすぐに病床は埋まるし、埋まってしまうとなかなか空かない。それに加えて、入院できたとしても急に悪化して重症化した場合、やはりインドネシアの医療体制はそれに十分に対応できていない。これをインドネシアの死者数が表している。そういう意味で、やはり次の感染拡大に備える生活、これはワクチンも含めて準備をしっかりした上で生活していただきたい。

また、ワクチン接種について、当館からもアストラゼネカのワクチンを打てることを案内して、それなりに数の申込みを受けている。ワクチン自体はとにかく打ってもらうのが一番良い。一つ最近分かったことがあり医学雑誌で発表されたことを紹介する。これはチリでの結果で、チリでもシノバックがかなり多く使われており、おおざっぱに言うと、シノバックであってもかなり重症化を防ぐ効果が高い。感染自体を抑える効果は必ずしも高くはないが、重症化を防ぐ効果はアストラゼネカと同じくらい。ファイザーなどの mRNA ワクチンは異常な程に効いているという部分があるので比較するのは可哀想ではあるものの、シノバックを打たれた方はそれなりにいると思うが、意外とよかったという結果が出ている。少しでも心の支えになればと思い紹介させていただいた。

4. 各社・機関からの状況報告

(企業からの報告)

感染状況についてはこの1ヶ月間グループ全体で31名と、先月は250名でしたので、感染状況としてはかなり落ち着いてきた。ワクチン接種状況についてはワクチン接種のために一時帰国したのが28名、ほぼ全員が2回目を打ち終え、9月中に順次インドネシアに戻る予定。またインドネシアに残っている日本人についても邦人のプログラムを活用し、ほぼ全員1回目を打ち終えた。1点教えていただきたいが、新規ビザについて、現在ビジネスビザもストップしていると思うが、この見通しが分かれば教えてほしい。私事で恐縮だが、9月末で帰任になり、後任が赴任するタイミングも含めても検討したいと思っており、ビザの見通しが分かれば教えていただきたい

(企業からの報告)

グループ全体で駐在員106名、ほぼ9割方日本に帰国している。9月末までに約半数が当地に戻ってくる。その後10月までかけて全員戻って来ることができればと思っている。それぞれ日本あるいはインドネシアで2回のワクチン接種を行った上、かつ2週間の抗体定着期間を経て当地に戻るとというのが弊社内の条件となっている。感染状況は幸いにも当地には15名ほどしかいないのでほとんど何も聞かないという状況。

(企業からの報告)

前回の海安協以降、新規感染は発生していない。駐在員のワクチン接種の状況は、現在 13 名体制となっているが、このうち 2 名は既にワクチン接種を終えて当地に戻っており、うち 8 名はまだ日本にいる。この 8 名についても順調にワクチン接種は終わっており、今月には全員当地に戻る。その後第二陣となる残りの者が日本に帰国してワクチン接種が済み次第当地に戻ることになる。なお、7 月頭に待避帰国を会社として指示していたが、これも解除となり今月中旬以降、順次若手の駐在員が当地に戻ってくる。家族については 2 家族ワクチン接種のため一時帰国しており、ワクチン接種完了次第、戻ってくる予定。

1 点質問だが、プドゥリ・リンドゥンギ (PeduliLindungi) について、従来 E-HAC があったが現在このアプリが停止されて、プドゥリ・リンドゥンギ内に設けられた E-HAC から登録するかと思うが、私が日曜に当地に戻ってきた際、日本でデータ登録したがその際全くチェックというものがなかった。今後、基本的に登録しないといけないという理解だが、この登録した情報が空港や入国の手続きの中でチェックが行われているのか教えてほしい。

もう 1 点、プドゥリ・リンドゥンギの関係で、国外でワクチン接種した我々のような外国人は、プドゥリ・リンドゥンギとのリンクがいつ取れるようになるのか、もし情報があれば教えてほしい。

(企業からの報告)

現地法人限定ではあるが、前回の海安協から新規感染者はなし。日本に一時退避している駐在員・出向者 30 名弱、帯同家族 30 名弱。今週、本社から 2 回のワクチン接種が完了することを前提に一時退避の解除が許可された。来週後半から順次、準備できた者から当地に帰還予定。全員が当地に帰還するのは 10 月一杯の見通し。質問は先ほど既に出たが、新規ビザの再開の見通しについて、現在新規赴任者が渡航を待っている状況なので教えて欲しい。

(企業からの報告)

感染者数は 6 月・7 月の増加に比べると、8 月・9 月は格段に減って落ち着いている。その理由の一つとも思われるが、ワクチン接種については、弊社全体で 7 割が接種完了。日本人については一時帰国での接種を終え、現在インドネシアに戻り始めているところ。

(企業からの報告)

新規感染者はなし。ワクチン接種は全社員 44 名おり、接種者は 36 名、全体の 82%となっている。44 名のうち駐在員が 10 名おり、そのうち接種は 7 名。未接種者は今後継続して接種する予定。現時点で一時帰国は、ワクチン接種を終え、当地に戻ってくるのを待っている状況。

(企業からの報告)

感染状況について、現在感染している者はいない。ナショナルスタッフで先月まで陽性の判定を受けた職員がいたが現在は全員陰性。ワクチン接種状況について、ナショナルスタッフについてはシノバックの接種を自己判断で受けて

いない者が2名おり、そのうち1人は懐妊中、もう1人も新婚早々に健康状態を心配して受けていないが、それ以外は接種を受けている。日本人駐在員6名のうち3名がインドネシア政府の外国人向けワクチン接種プログラムによりアストラゼネカ接種済み、残る3名は未了。

質問は、大使館総括公使から話のあったワクチン接種について、日本政府はアストラゼネカワクチンを承認しているが、40歳以上を推奨しているということで、40歳未満の邦人の方はどうしようと悩んでいる方もいるかと思われる。もしアストラゼネカワクチン以外の日本で承認されているワクチン（ファイザーないしモデルナ）が今後当地で打てる可能性があるのか、もし打てるならいつ頃か、何か見通しなどあれば教えてほしい。

（企業からの報告）

ローカル社員、日本人社員ともに今月に入って新規感染者はなく、現時点で感染している者もない。ワクチン接種については、ローカル社員は全体では90%が接種を終えていてほぼ1回以上のワクチンは打ち終わった。日本人駐在員については9名のうち2名が当地で接種済み、残り7名がローテーションで一時帰国して接種を行う。そのうち3名が現在空港接種を終えて当地に戻ってきているという状況で、残りの4名も今月には戻ってくるので、これをもって全員2回の接種が完了する。

東部工業団地では、ジャカルタ・ブカシはまだレベル3規制のままだが、カラワンはレベルが2に下がった。13日からと聞いており、工場の操業等についてもパーセンテージが変更されている。ただ一部気になる点があり、プドゥリ・リンドウングのアプリについて、工場の入退室とスーパーマーケットの出入りについてもすべてアプリを使用することが内務省第39号に書かれており、今後の対応に注意して頂きたい。

（企業からの報告）

感染者は落ち着いてきている。ワクチン接種については、駐在員7名は日本で接種する前提で順調に進んでおり、既に数名は日本からジャカルタに戻っている。9月中にほとんどが戻る予定。警備員含めたスタッフについては、まもなく1回目を全員終えるようなスケジュールで進んでおり、2回目の接種者も増えてきた状況。

先ほど大使館警備班書記官から話があった工業団地のデモ、弊社のお客様でも村人とかRT、RAの方々が工場によく来るようになった。経済情勢のことなのか、コロナが影響しているのか、リンバの関係とか、産業廃棄物、人の雇用などの要求があると報告を受けている。ナショナルスタッフや警備員と一緒に頑張ってご対応いただければと思うが、そういうものから対応次第ではデモになりかねるので、引き続きご注意いただきたい。

（企業からの報告）

8月に感染したナショナルスタッフが4名。8月9日以降の感染者なし。感染状況はかなり落ち着いている。駐在員9名のうち6名が一時帰国してワクチ

ン接種を受けており1名は既に当地に帰国済み、5名が9月中に帰国予定。残りの3名のうち2名は当地で1回目のワクチンを接種済み、これから2回目という状況。もう1名については第一陣の帰国者が戻ってきた後に一時帰国してワクチン接種という状況。

（企業からの報告）

現地職員の感染状況は7月のピーク時と比べて半分くらいに落ち着いており新規感染者はかなり減っている。日本人駐在員は二十数名いるがその大半がワクチン接種のために帰国している。2回接種が終わった約10名は既にジャカルタに戻ってきている。残りの駐在員もワクチン接種が終了次第、10月中にはジャカルタに戻ってくる予定。

（企業からの報告）

駐在員48名のうち14名が日本に帰国中。このほとんどが7月末から8月にかけて帰国しており、一部は特別便で帰った者もいる。昨日、一昨日にこれとは別に4名が日本から帰国したばかりで現在8日間の隔離中。帯同家族については13家族中4家族が日本に避難中。感染状況は平穏。6000人のナショナルスタッフについては、先週の段階で5人のみ感染という状況で、1週間に300人ぐらい感染したことがあったことを考えればかなり落ち着いている。ただ、今は症状がない者が多いので、弊社は月に1回スクリーニングで抗原検査を行っているが、1人見つかったと思えばその周りに無症状の感染者がいるという状況はまだあって、感染が完全に収まった状況とは言えないということは身をもって経験したのが先週で、先週は感染者が15名くらいいた。質問と要望として、昨日か一昨日に経団連が、ワクチン接種済みの方が日本に帰国する際に隔離を免除してくれないかとの要望をしている。これに関して、例えば日本で認められているワクチン、すなわちファイザーやモデルナ、アストラゼネカであれば、もし日本でこの措置が認められればどこの国で打っていても入国できると思うが、この中にもシノバックやシノファームを打った方が大勢いると思うが、仮に日本が隔離免除するとした場合に中国製は除外すると言われると正直困るので、この辺りは是非とも平等に扱って欲しい。先ほど大使館医務官からも中国製のワクチンでも効果があるという有り難い言葉があったのでこれらは根拠として平等に扱っていただくよう要望する。

（企業からの報告）

感染状況について8月は100名程度、7月は300名を超えるという状況だったのでだいぶ落ち着いてきた。8月は日本人の感染者はゼロ。7月頭に一時退避を一部日本人に指示しており現在14名が一時退避しているが、そのうち9名のジャカルタ勤務者について先週待避を解除して、日本でワクチン接種後、早い者は今週から戻ってくるという状況。滞在家族の3家族についても待避を解除しており準備整い次第戻ってくる。あと6名が転入をする予定だったが、新規ビザが一向に目処が立っていないので、なんとか大使館からもお力添えいただきたい。

(企業からの報告)

感染状況については現在隔離者が1名のみ。その隔離者も今週隔離が終わるので、来週このまま新規感染者が出なければ感染者ゼロとなる見込み。日本人25名のうち11名が一時帰国中、2回ワクチン接種して順次戻ってくる予定。その後4名が入れ替わりでワクチン接種のために一時帰国予定。インドネシアで接種を受ける者が5名程度という状況。ローカルスタッフは接種1回のみの方を含めると90%程度が既にワクチン接種完了している。

(企業からの報告)

感染者は今のところゼロでかなり落ち着いた。日本人4名は、基本的に1回目のワクチン接種を当地で受けたという状況。

(企業からの報告)

感染状況はかなり落ち着いており、この1週間で新規感染は数名程度。日本人出向者にも感染は出ていない。ワクチン接種について日本人は全員接種済み、インドネシア人スタッフは一部を除きほぼ全員接種済み。接種できていない者も直近感染したなどの理由がある者のみ。質問は、新規ビザの見通しと、既にビザ持ちで入国できていない者についての何か猶予措置等はないか、情報があれば教えてほしい。

(企業からの報告)

グループ全体の感染者は累計で800名を超えるが、8月以降はほぼゼロと大きな改善が見られる。人の動きについては、7月末から8月頭にかけて10名の駐在員、10家族が日本に待避していたがすべて待避解除を指示。すでに数名が当地に戻ってきている。質問は、これだけインドネシアの感染状況が顕著なピークアウトを示す中で、日本における10日間隔離が無くなる又は短縮されるという検討がされているのか否か教えてほしい。

(企業からの報告)

グループ全体で8月頭に約200名いた感染者が、先週末現在で40名ほどに落ち着いている。ジャカルタのみならず各地方に支店を構えているところはまだ感染者がいる状況。ワクチン接種については、現法、事務所については8割方のNS含めたスタッフの接種が終了している。一方、日本人駐在員については6月末からワクチン接種のために一時帰国しており、グループ全体で70名ほどの駐在員のうち約8割が一時帰国し、再渡航の指示が9月頭に出ているので9月中にはほぼ全員が戻る予定。他社の質問と同じだが、新規ビザを取った者が入国できない状況について情報があれば教えてほしい。

(企業からの報告)

ローカルスタッフについて、7月は50名以上の新規感染が出たが、8月は3名ということのでかなり落ち着いてきている。ワクチン接種については、1回目はほぼ全員接種済み、アストラゼネカ等で数ヶ月待たないといけない者が2回目を待っているという状況。日本人駐在員5名中4名が現在一時帰国中、9月末から10月頭に欠けてインドネシアに戻る予定。

（企業からの報告）

新規感染者はほとんどなく週に1、2名程度。駐在員は順次ワクチン接種のため帰国しており、2回接種が終わったら戻ってくる。一部待避の指示も出していたがこれを解除して9月中に駐在員全員が戻る予定。家族についてはまだ現時点で判断を出していないという状況。

（企業からの報告）

コロナ変異株の流行前、駐在員は90名弱がインドネシアにいたが70名ほどが一時待避した。9月1日付けで待避指示を解除し、9月前半で約30名、9月15日以降で第二陣の残り40名がインドネシアに戻る予定。全員待避中に日本で2回接種を受ける予定。残留していた駐在員についてもインドネシア国内でのワクチン接種がほぼ完了する見込み。

（企業からの報告）

過去1ヶ月、約250名のインドネシア人社員で新規感染者はほぼ出ていない。ワクチン接種についてはほぼ完了しており、完了していない者は直近で感染したため2、3ヶ月後に接種する見込みで、数ヶ月には全社員の接種が完了する予定。日本人については約20名がワクチン接種のため一時帰国していたが、8月末から帰還を始めて9月末には帰還完了するよう進めている。

（企業からの報告）

邦人の感染は発生していない。8、9月は全社で数名の感染に留まっており、ほぼ通常の活動に戻っている。前回報告した邦人1名が米国へワクチン接種のために渡航している件について、1週間弱で接種渡航を終え、8日間の隔離期間を明け、2週間で職場復帰している。これをもって駐在邦人も全員ワクチン接種を終え、当地の社員はほぼ接種が完了しているという状況。質問は、当社も新規の赴任者がいるので、新規ビザの手続きについて確認したい。

（団体からの報告）

まず、当地のワクチン接種の実現についてお礼を述べたい。以前日本政府承認ワクチンの当地での接種について要望させていただき、先に羽田と成田での接種を実現していただいたが、一方で3月のコロナのセミナーでは当地では難しいとの説明をいただいた。情勢の変化等があり再度相談させていただき、大使館の皆さまには走り回っていただくような形で実現いただいた。我々の会員からも多く要望が寄せられていたところであり、感謝申し上げる。

感染状況だが、この1ヶ月感染者なし。接種についてもローカルスタッフはすべて2回目接種済み。日本人スタッフ2名も接種済み又は目処がたった。会員から多く寄せられている要望事項としては、E-VISA再開、期限切れビザの救済、海外で接種した者のアプリとのデータのリンク。また質問として、今回の接種には例外の記載がないことから、感染後3ヶ月など接種受けられない方は今後どうなるのかという点。また、ワクチン接種の関係で会員からの要望が根強いモデルナ、ファイザーの接種という点は、将来を見据えて今後も要望していきたい。

(JICA)

感染状況について、直近1か月ではインドネシア人も日本人も感染者なし。我々の関係者の滞在状況について、7月上旬に技術専門家や家族等に一時帰国を勧奨するという措置をとっており、これを9月1日に措置解除。40名ほど帰国していたが、今月いっぱいかけて順次戻ってくる予定。事務所に勤務する所員は引き続き残留しているが、順次ワクチン接種のための帰国を実施中。

(JETRO)

新規感染者はおらず、これまで陽性反応が出たスタッフもすべて陰性が確認できている。ローカルスタッフのワクチン接種状況は、直近この2、3ヶ月で感染した者以外は概ね8割方接種が終わっている。日本人は交代で一時帰国してワクチン接種を進めているという状況。

(国際交流基金)

直近1ヶ月新規感染者はおらず、これまで感染した者も全員回復している。ワクチン接種については、日本人スタッフは概ね9割が帰国して接種進めている。残る1割についても順次帰国させる予定。インドネシア人スタッフは概ね8割方ワクチン接種済みで、こちらも順次対応する。

(チカラン日本人学校)

感染状況については、教員1名が感染している。日本に一時帰国した後、当地に戻ってきて隔離中に陽性になったもの。そのままシロアム病院に入院して現在は退院して回復待ちという状況。ワクチン接種については、教職員全員が済んでいる。学校の状況としては、生徒数35名、一時帰国で17名が日本に帰国中、残り18名で対面授業を8月30日から開始している。外国人のワクチン接種のご案内をいただいたところ、小学校6年生、12歳以上の生徒が12名いるが、このうち6名が接種済みで6名が未接種という状況。質問は、外国人の12歳以上のワクチン接種について、インドネシア政府に動きがあるのか否か教えてほしい。

(ジャカルタ日本人学校)

感染状況については、教師は7月後半以降感染が出ていない。児童生徒についても夏休みがあった関係からか感染の報告はない状況。ワクチン接種につい

ては、日本に一時帰国しての接種、それから今月の大使館のワクチン接種プログラムに参加して進めていく予定。学校の状況としては、8月27日より2学期が始業しており、今週9月10日（金）から、対面授業再開に向けたシミュレーション登校を再開するというので、通学バス利用、6時間、弁当持参とし、体育ができない以外は通常の授業に戻る予定。

5. 補足説明・質疑応答

（大使館領事部長）

新規ビザについて、新規ビザを取られた方が未だ入国できていない状況へのご指摘及び解除についての見通しについては複数の方からご質問をいただきました。また、帰国中にビザが切れた人の申請見通しについてもご質問を頂いた。これらについては、新規ビザでの入国を再開するという法務大臣令のドラフトが法務人権省の方で作成されているという情報には接しているが、これがいつ発出されるかは不明。昨夜PPKMが9月13日までという情報があったが、社会活動制限の方向性にもリンクするとも考えられる。いずれにしろ日本企業の必要性が高いとので、よりアンテナを張って情報収集に努め、日本人社会の要望を入国管理総局に伝えていきたい。ビザ失効後の再申請の審査期間の短縮についても要望いただいております、この点も含めてフォローしていく。進展があり次第、領事メール等で迅速にお知らせしていく。

ワクチンのアプリについて、E-HACKはプドゥリ・リンドゥンギに統合されたというご指摘を受け、我々もそのように認識している。他方、空港到着時にプドゥリ・リンドゥンギのチェックがされていないというご指摘について、日本でワクチン接種した方の入国では、現状、紙媒体の接種証明書（日本語と英語の併記）でとりあえず今は入国できている状況。他方、外国で接種した場合のプドゥリ・リンドゥンギへの反映方法が設定されていないので、この点は当館から外務省等を通じて指摘しており、これができるべく早く実現できるように申し入れを続けていく。もう少しご不便が続くと思われるが何か分かり次第ご連絡させていただく。

ワクチン接種について、アストラゼネカは厚労省の案内では40歳以上を推奨とされている。実際に39歳以下の方にはどうかというご質問については、在留邦人から複数いただいているところ。

（大使館医務官）

日本では40歳以上を推奨しているが、日本は他のワクチンも選択できるという事情もあるので、稀にある血栓等の副反応を考慮して40歳以上となっているが、元々世界的には18歳以上となっているところが多い。ただし、18歳未満についてアストラゼネカは今のところ治験をやっている等の話は聞こえてこないなので、少なくとも18歳以上であれば問題ないと考えている。

（大使館領事部長）

ワクチン接種について、当地において今回邦人にアストラゼネカの接種の道が拓けたことに関連して、最終的には、ファイザーやモデルナのワクチン接種

の機会を与えてほしいという要望も邦人社会から寄せられている。別途、日本経団連から入国後の14日間隔離免除の要望が出ていて、将来的にワクチン接種が本邦入国時の隔離免除の条件になるかも知れない。インドネシアでは中国製ワクチンを打っている在留邦人も多いので、もし隔離免除の措置が取られる場合は中国製ワクチンであっても除外しないでほしいとのご意見を頂いた。これらの点は中期的な課題と考えている。引き続きファイザー製やモデルナ製ワクチンを当地で接種できるようインドネシア政府との交渉を進めるとともに、日本入国の際に隔離免除の措置が取られる場合は、日本の関係省庁に当地の事情を説明して、インドネシア在留邦人の不利にならないように進めていきたい。

7月上旬から行われている本邦入国後10日間施設隔離について、現在、10日間の隔離が必要な国は既に2カ国まで減ってきており、インドネシアとキルギスタンのみという状況。それまで10日間だった他の国は8月中旬頃に6日間や3日間に減っている。各国の感染状況を見ての日本政府の水際対策としての判断にはなると思われるが、この点でもインドネシアが不利にならないように注意していきたい。

(大使館総括公使)

プドゥリ・リンドゥンギについて、日本の接種証明書をリンクさせる問題は、既に大使館から申し入れており、インドネシア保健省としてもリンクさせることは政策的に決定済みであって、あとはどのようにリンクさせるかという技術的な問題が残るのみになっているとのことである。問題は、紙の証明書が本物であることをどう認証するのか、ということを保健省が考えているところ。これは日本の証明書だけでなく世界中の証明書も同様である。我々としても一日でも早くデジタルリンクが実現できるよう引き続き働きかけていく。

ワクチンの種類について、もちろん在留邦人の皆さまからのご要望は理解しており、中国製よりもアストラゼネカ、アストラゼネカよりもモデルナやファイザーということ踏まえて我々も検討してきた。将来、ファイザーやモデルナを打てる可能性があるのかというご質問については、これはインドネシア側のワクチンの調達量、国内への配分戦略次第という状況。というのもワクチンはインドネシアでは国が一括して外国から調達することになっており、民ベースでの外国からの輸入は一切認められていない。中国製のワクチンの供給量が一番多く、日本承認のワクチンの中ではアストラゼネカが多いという状況。今回我々がワクチンプログラムを立ち上げる上においても、希望者には必ず100%日本承認ワクチンが行き渡るよう粘り強く交渉してきた結果、アストラゼネカの接種を実現することができたが、引き続きファイザーやモデルナといったワクチンを供給できるかについても模索していきたい。ただ現時点ではインドネシア内でのファイザーやモデルナの流通量が非常に限られており、たまたま1回目を受けられても2回目を打てる保証はない、といった接種会場の例も報告を受けている。大使館としては希望者すべてに行き渡るシステムを考えていきたい。

経団連からの提言について、本日午前中の官房長官の会見でも話題になって

いるものと承知しており、官房長官からも今後検討すると答えたと承知している。提言の中身には色々あると思うが、国際的なワクチン接種者の待機免除がどうなるかという点は、まさに我が国の水際措置をどうするかという文脈の中で今後政府内で考えていくことになる。国際的なビジネス往来の再開について、これも経済界からの要請が大きい分野と思うが、これも現時点での水際措置を緩和できる状況にあるのかという観点から検討が必要と思われる。ワクチン接種者への待機免除についてはこれも同様で、日本で承認されたワクチンのみ優遇されるか否かはこれからの議論になると思う。現在行われている10日間隔離は、決して恒久的な措置ではなく、例えばインドなども以前は10日間隔離だったのがその後短縮されているし、隔離期間の長さはこれからも都度見直されていくものと承知している。

次回海安協は2021年10月5日（火）に開催予定。